

事業名	世界的研究教育拠点形成のための重点的支援 - 21世紀COEプログラム -
主管課及び関係課 (課長名)	(主管課) 高等教育局大学改革官室 (主任大学改革官: 小松親次郎)
上位施策目標	<p>施策目標3-1 大学などにおける教育研究機能の充実</p> <p>達成目標3-1-6 第三者評価に基づく競争原理により、国公私立大学を通じて、学問分野別に、世界的な研究教育拠点を形成し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進する。各大学の戦略により、各大学の個性や特色の明確化が図られ、大学全体の水準向上や活性化を図る。</p> <p>(関連) 施策目標3-2 大学などにおける教育研究基盤の整備</p> <p>達成目標3-2-3 施設の効率的・弾力的利用を図るための学内規定の整備を推進する。</p>
事業の概要	<p>- 概要 -          国公私立大学を通じて、大学からの申請を受け、学問分野別に第三者評価を行い、主として研究面でポテンシャルの高い研究教育拠点(大学院博士課程レベル)に対し、高度な人材育成機能も加味した、重点支援を行うことにより、世界最高水準の大学づくりを推進する。</p> <p>- 経緯 -          「21世紀COEプログラム」は、平成13年6月の「大学の構造改革」の一環として、大学に第三者評価による競争原理を導入することで、個性輝く世界最高水準の大学づくりを目指し始められた事業である。</p> <p>14年度公募対象分野:【生命科学】【化学、材料科学】【情報、電気、電子】【人文科学】【学際、複合、新領域】          15年度公募対象分野:【医学系】【数学、物理学、地球科学】【機械、土木、建築、その他工学】【社会科学】【学際、複合、新領域】</p> <p>- 事業評価の目的 -          本プログラムは、学問分野を10分野に分類し、平成14年度～平成15年度(2年間)で、当該10分野をカバーすることとしており、平成16年度(3年目)以降の事業の進め方については、これまでの事業の進捗状況等を踏まえ、検討することとしてきた。これらの経緯を踏まえ、2年間の本プログラムの事業の進捗状況や社会的影響等を評価し、3年目以降の本プログラムの進め方について、事業評価を行うものである。</p>
予算額及び事業開始年度	<p>平成16年度概算要求額: 41,746百万円          (平成15年度予算額33,400百万円)          事業開始年度: 平成14年度</p>
必要性	<p>(1) 事業の必要性          我が国の大学が、世界トップレベルの大学と伍して、教育及び研究の水準向上や、世界をリードする創造的人材の育成をしていくためには、本事業の継続的な実施により、国公私立大学を通じた大学間の競い合いがより活発に行われ、世界的な研究教育拠点の形成のための重点的支援を行うことにより、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりが推進される必要がある。</p> <p>(2) 拡充の必要性          下記「効率性」に記載のとおり、本プログラムの導入により、「大学の構造改革」は着実に進んでおり、3年目以降の事業の進め方について積極的な対応が求められている。また、大学関係者のみならず、マスコミ等社会的評価、海外機関の反応等からも、本プログラムに対する期待が大きいところ。</p> <p>&lt;基本的な考え方&gt;          3年目以降の事業の進め方については、本プログラムの施策効果を踏まえ、これまで採択した研究教育拠点に対し、継続的に予算措置を行うとともに、各大学に改革を更に促し、「大学の構造改革」を一層加速することが必要である。</p> <p>また、本プログラムは、高度な人材育成機能も重要な要素としているものであること</p>

	<p>に留意する必要がある。          &lt; 具体的措置 &gt;          平成16年度(3年目)以降においても、規模の大小を問わず新規公募を行うことが適切であり、そのための必要な予算措置を講じることが必要である。なお、新規応募を行う分野としては、平成14年度に採択した学問分野のうち、平成14年度応募締切以降において、例えば、研究科等の組織の新設・再編、他機関との連携体制の新たな構築や、新たな学術的知見の発見など、新たにおこった情勢の変化により、本プログラムに応募するにたる価値が発生したものについて、応募を実施するなどが考えられるところである。また、国公立大学を通じた諸制度や教育研究支援等、振興施策を図るため、大学振興課(大学課振替)を要求しているところ。</p>	
効率性	<p>&lt; 事業の進捗 &gt;          ・ 選定評価については、文部科学省外に「21世紀COEプログラム委員会」を設置。          ・ 事業の実施に必要な公募要領、審査要項、審査基準等を定め、事業の進め方を決定(当該資料は公開)。          ・ 平成14年度は、50大学113件を採択(申請は、163大学464件)し、採択拠点に対し補助金を交付。          ・ 平成15年度は、56大学133件を採択(申請は、225大学611件)。          &lt; これまでに得られた成果 &gt;          ・ 国公立大学を通じて、246件の特色ある研究教育を行う拠点を採択した。          ・ 「大学の構造改革」を進める上で、本プログラムは非常に大きな刺激を与えている。具体的には、各大学において、学部・研究科の壁を超え、学長によるマネジメント体制の下、全学的視野に立って戦略的な研究教育体制の構築に取り組む契機となる、国公立大学を通じた大学間の競争的環境の一層の醸成等により、大学全体の活性化に役立っているところ。          ・ また、採択されなかった拠点(大学)においても、次年度にむけて検討を活発化させるなどの動きが見られたところ。これらは、平成15年度の申請件数の増加に顕著に現れているといえる。平成16年度においても、新規公募を行うこととなれば、国公立大学を通じて、「大学全体の活性化」に大きく役立つと考えられる。これらの効果を踏まえると、当該事業は大きな効果を得ていると考えられる。</p>	
有効性	達成効果の把握の仕方(検証の手順)	国公立大学を通じた評価システムの確立状況 個々の拠点形成計画の評価を実施する「21世紀COEプログラム委員会」の評価結果実績報告書等
	得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)	国公立大学を通じた評価システムの確立状況 研究教育拠点の実施計画(調書)の達成度(21世紀COEプログラム委員会が実施する評価を参考)
得ようとする効果及び達成年度	<p>国公立大学を通じた評価システムの確立          中間評価、事後評価を含め、評価項目、評価方法、評価体制、評価結果の活用等の方法の確立及び改善、充実を目指す。          第三者評価に基づく競争原理を導入することによる世界的な研究教育拠点の形成          評価結果に応じて資金を重点配分し、国公立を通じた競争的な資金を拡充することにより、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進し、「世界から優秀な人材の参集」「世界をリードする最先端の研究成果の創出」「世界で活躍する優れた人材の輩出」することができるような体制づくりを目指す。</p>	<p>達成年度</p> <p>平成19年度</p>
備考	<p>・ 大学振興課(大学課振替)の機構定員要求中          ・ 「政策群」の「若者・長期失業者の就業拡大」として要求中          ・ 関連閣議決定等：別紙参考資料のとおり          (参考資料)          ・ 「21世紀COEプログラム」関連閣議決定等          ・ 「21世紀COEプログラム」の概要          ・ 「21世紀COEプログラム」に関する新聞記事等について</p>	

## 21世紀COEプログラム

(14年度予算額 182億円)  
15年度予算額 334億円

### [趣 旨]

第三者評価に基づく競争原理により、国公立大学を通じて、学問分野別に、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、もって国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進する。

### [概 要]

主として研究上のポテンシャルの高い大学の研究教育拠点に対し、高度な人材育成機能も加味した、重点的支援を実施。

平成15年度は、学問分野10分野のうち新たに5分野について公募・選定し、14年度に採択した拠点に2年目の事業費を配分。

各大学の個性や特色に応じ、各学問分野の世界的な拠点が形成されるとともに、各大学が全学的視野に立って戦略的な研究教育体制の構築に取り組むなど、大学全体の活性化につながることも期待。

基本的な仕組みの概要は以下のとおり。

#### ・分野構成

14年度 公募対象	【生命科学】、【化学、材料科学】、 【情報、電気、電子】、【人文科学】、 【学際、複合、新領域】	(実績) (・申請163大学464件) (・採択 50大学113件)
15年度 公募対象	【医学系】、【数学、物理学、地球科学】、 【機械、土木、建築、その他工学】、 【社会科学】、【学際、複合、新領域】	(実績) (・申請225大学611件) (・採択 56大学133件)

#### ・対象

大学院（博士課程）レベルの専攻等を対象（複数の専攻等の組み合わせや附置研究所等にも配慮）。

#### ・申請

学長を中心としたマネジメント体制の下、どの専攻等を如何にして世界的な研究教育拠点に育成するかという大学としての戦略に基づき、学長から申請。

#### ・審査

文部科学省外で、日本学術振興会を中心に運営される「21世紀COEプログラム委員会」（専門家・有識者等で構成）において、研究教育活動実績や当該大学の将来構想を中心に、公平・公正な第三者評価を実施。

#### ・審査の視点

研究教育活動実績や将来性、拠点形成計画の内容、大学としての将来構想等を基に、ポテンシャルの高さについて評価。

#### ・年次計画等

1件当たり年間1～5億円程度を原則として5年間継続的に交付。事業開始2年経過後に中間評価、期間終了時に事後評価を実施。

#### 平成15年度の主なスケジュール

- ・7月17日 採択拠点の決定
- ・8月中 平成15年度採択分補助金交付決定（予定）

平成16年度要求額 417億円  
(平成15年度予算額 334億円)

# 「21世紀COEプログラム」

- 世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援 -

第三者評価による競争原理の導入により、国公立大学を通じ、優れた研究教育拠点に重点支援を行い、世界最高水準の大学づくりを推進する。

## 経緯

- 大学の構造改革の方針(平成13年6月) -
  - 国立大学の再編・統合
  - 国立大学の法人化
  - 第三者評価による競争原理の導入
- 平成14年度より「21世紀COEプログラム」の創設

## 実績

### ・事業の概要

審査: 省外の「21世紀COEプログラム委員会」が公平・公正な第三者評価を実施  
対象: 各大学の全学的な観点からの拠点形成計画  
期間: 5年間(2年経過後に、中間評価を実施)

### ・申請、採択状況

14年度 公募対象	【生命科学】、【化学、材料科学】、 【情報、電気、電子】、【人文科学】、 【学際、複合、新領域】	(実績) ・申請163大学464件 ・採択 50大学113件
15年度 公募対象	【医学系】、【数学、物理学、地球科学】、 【機械、土木、建築、その他工学】、 【社会科学】、【学際、複合、新領域】	(実績) ・申請225大学611件 ・採択 56大学133件

大学全体の活性化に  
極めて有効との評価

平成16年度も積極的な推進が必要

## 平成16年度の計画

### 既採択分の継続 + 平成16年度新規公募を実施

- 新規公募の必要性 -
- ・「大学改革」の前進 … 大学全体の活性化、大学教育の質の向上、競争的環境の醸成に極めて有効
- ・急速な研究教育環境の変化への適切な対応
- ・世界をリードする創造的な「人材育成」に寄与
- ・国公立大学を通じた競争的な教育研究予算の充実に寄与

# 国公立大学を通じた大学教育改革の支援

— 21世紀の人材育成の中核を担う高等教育の充実 —

本格的な「知の時代」の大学教育へ

競争的環境の醸成  
個性輝く大学づくり

国立大学法人化  
公立大学法人制度の創設  
設置認可の規制緩和

卓越した研究教育拠点形成 -博士レベル-

国際競争力のある世界最高  
水準の大学院づくり

21世紀COE  
プログラム

本格的なプロフェッショナルスクールの形成 -修士レベル-

理論と実務を架橋した高度な専門教育  
(同法、経営、知財、技術経営、…)

法科大学院等  
専門職大学院  
の形成支援

大学の教育機能の向上 -学部レベル-

充実した多様な教育プログラムの提供と  
現代的課題に対応できる人材育成

特色ある大学教育改革  
の支援

設置者別の経常的財政支援

国公私を通じ、自主自律を尊重した  
プロジェクト支援の強化

## 国公立大学を通じた大学教育改革の支援

### 1．特色ある大学教育改革の支援

#### (1) 特色ある大学教育等支援プログラム

- ・ 特色ある大学教育支援プログラム
- ・ 現代的教育ニーズ取組支援プログラム
- ・ 教育能力向上のための在外研究支援プログラム

#### (2) 社会・地域・大学間の連携強化

##### 産学連携教育推進事業

- ・ 産学連携教育プログラム開発事業
- ・ 理論実践型インターンシップ導入支援事業

##### 地域貢献特別支援事業

- ・ 地域貢献特別支援事業

##### 大学間連携等支援事業

- ・ 大学間連携等支援事業

#### (3) ITを活用した教育研究支援事業

- ・ e-Learning実践モデル支援事業

### 2．法科大学院等専門職大学院の形成支援

- ・ 法科大学院等専門職大学院形成支援

### 3．21世紀COEプログラム

- ・ 21世紀COEプログラム